



## 尾形六郎兵衛の視点(中)

### 15歳の剛と初対面

尾形は柏戸こと富樫剛少年との初対面を著作「六十年目の自画像」の中で触れている。

父元雄、鶴岡の伊勢ノ海部屋世話人・田中誠一(大山在住)と「体験入門」として上京した昭和29(1954)年9月、東京・鶯谷駅近くの別邸を尋ねてきたのだった。部屋の兄弟子・柏森(鶴岡市旧上郷村出身)に伴われて来た。日付は16日と正確に覚えており、秋場所初日の2、3日前だった。

「少年は富樫剛と言って、もう1カ月で満16歳になるという。身長6尺3分(1.83)、体重21貫(81

### 立浪部屋を勧めたが

それでも「伊勢ノ海のような小部屋では何かと苦労するだろう。立浪部屋なら双葉山も出た大きな部屋だし、稽古相手にも恵まれ、必ず良い方向に結ぶはず」と父・元雄に知人を通じて、上京前連絡していた。しかし富樫家からは「体験入門だけで帰郷の予定」「田中氏と伊勢ノ海部屋への義理がある」との返答が来た。いずれにしても、立浪部屋入門はかなわぬことだった。

正式入門後、尾形は気持ちを切り替えた。部屋の途中移籍はできない決まりでもある。伊勢ノ海親方からも「尾形さんの地元から大器が入りました。ひとかどのものにします」と笑顔でありさつされた。内心の残念な思いは打ち消すことにした。

### 父方ルーツは村木沢

昭和28年に山形市に合併された南村山郡村木沢村は女優・演出家の渡辺えり

(66)の故郷として知られている。広域の山形市では西側に位置して、市街地を挟んで南東の蔵王連峰を望む山間の村だ。渡辺は父が教師。5歳まで自然にあふれた村木沢で過ごしたことを、幼少期の良き思い出としてエッセーなどで振り返っている。

この旧村木沢村字若木が柏戸の父方の祖父の出身地だった。名前を小関庄太郎雄は山添村の富樫家に婿入



といい「木挽」、「山師」とも言われた製材業にいそしむ家だった。元治元年生まれで西暦だと1864年。明治維新の4年前である。これが大男で庄内の旧黒川村樁出に出稼ぎに来ていた時に釧持家の娘・ふみゑに惚れられ、婿入りした。

### 黒川の立派な体格

「要するに黒川村釧持家の立派な体格の種が、山添の富樫家の肥えた畑にまかれて、そこに剛少年が誕生。

りし、その次男剛が柏戸だ。元雄自身は1.70ほどもだが、弟や甥っ子たちは1.80を超える体格になる者が複数出た。そのうえ陸上の短距離走者として昔の「青年団全国陸上」に出場した者もいるなど皆体格が良く、運動神経に優れていた。これが剛にも受け継がれたことを尾形は書いた。

### バラ園で記念撮影

○：入門前後から縁があったことで尾形は柏戸を注目。入門翌年の30年6月、鶴岡に戻った際も激励した。酒井家にも連れて行き、当主・忠良(ただなが)に紹介。同家のバラ園で写真を撮った。跡地は現在、致道博物館の旧西田川郡役所が移築されている。左からザンギリ頭に下駄姿の三段目

毎週火曜日付に掲載